

7. 仏教と日本文化

○無常観…この世のあらゆる物事は絶えず移り変わる→仏教的な考え方

(日本人は、無常を主観的・心情的に捉えた)

祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり 沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理をあらはす 『平家物語』

ゆく河の流れは絶えずして しかももとの水にあらず 『方丈記』

くすむひとは見られぬ、ゆめのゆめゆめ世をうつつがほして

なにせうぞ、くすんで、一期は夢よ、ただ狂へ 『閑吟集』

願はくは 花の下にて 春死なむ そのきさらぎの 望月のころ 『山家集』

- ・ 鴨長明『方丈記』…火災・竜巻・干ばつ・地震などの天変地異に人の世の無常を感じる
- ・ 吉田兼好『徒然草』…「つれづれなるまま」に、今思い浮かんだことを書きとめる
- ・ 西行『山家集』…世間から隠遁し、花鳥風月を愛でる世界に身を投じる

○芸道…

- ・ 能(「幽玄」を特徴とする。観阿弥・世阿弥(能の理論書『風姿花伝』を著す)親子によって大成)
 - ・ 幽玄…「幽」かすか・深い 「玄」黒い →深くて微妙な仏教の本質
- ・ 茶道…千利休によって「わび茶」(簡素な茶)として大成。一期一会を心得とする
 - ・ わび…物悲しく心細い心の状態。不足の中に簡素で趣深い有様を見出す。
 - ・ さび…ひっそりとして淋しい境地。心の孤独を表す。
- ・ 生け花(華道) ・ 水墨画 ・ 枯山水(石庭) ・ 俳諧 など……

センター問題に挑戦! No.7 (1998年追試) [やゝ易]

一つ一つの立ち居振る舞いに虚飾のない美を求める能や茶道のあり方や、枯山水や水墨画、あるいは華道に関係の深いものはどれか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 自然の簡素できりつめた表現のうちに、美や悟りの世界を表そう。
- ② 自然のリアルで忠実な表現のうちに、美や悟りの世界を表そう。
- ③ 自然の豪華で華麗な表現のうちに、浄土の姿や仏の救いを示そう。
- ④ 自然の繊細で簡潔な表現のうちに、浄土の姿や仏の救いを示そう。

[No.6の答 ③ ①×ひたすら念仏を唱える(専修念仏)⇒法然。 ②×釈迦と変わらない心身の修行⇒道元。 ④×自分の悪を徹底的に自覚し、すべてを仏にゆだねる⇒親鸞。